

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第45号

2013.7



「絆 ～今を生きてこそ明日がある～」  
親子セミナーにて(中学校)



「社会を明るくするために」  
坂出綾歌地区弁論大会にて(中学校)

## 目次

- ・今, 学園では
  - 幼稚園 p 2
  - 小学校 p 3
  - 中学校 p 4・5
  - 特別支援学校 p 6
  - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動(松韻会・親和会) p 8・9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10

## みんなで食べることを楽しむ ～食育から広がる学び～

幼児期は、生活や遊びから様々なことを学びます。そこで、園においては日々の生活や遊びの充実を図っています。今回は、その中の食の取り組みについて紹介します。

本園では、3、4、5歳児の発達や一人ひとりの食の様子に合わせながら、みんなで食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味関心、自ら食べようとする気持ちを育んでいこうとしています。また、この食育を通して、豊かな心や人とかかわる力も育まれていきます。

### 3歳児黄組 みんなと一緒に食べる中で

幼稚園生活の中で、子どもたちが楽しみにしていることの1つに『おやつ』があります。先日、子どもたちが「喜田先生、今日のおやつはなあに？」と聞いたところ、「今日のおやつは、食べると“ぱりんこ”って音がするおかきだよ」と教えてくれました。子どもたちはわくわくした様子で口に入れ「あっ！“ぱりんこ”っていうた」「僕も“ぱりんこ”いうた」「私も」と音がすることを嬉しく感じ、わざわざ先生の耳元まで来てお口の中の“ぱりんこ”を聞かせてくれたり、隣に座っている友達同士で聞き合ったりしていました。それ以来、おやつがりんごの時は「シャリ シャリ」、パイの時は「サクッ サクッ」など、いろんな音がすることが楽しいようで、先生や友達と共に感じ合えることがおいしさにもつながっている様子です。



### 4歳児赤組 自分たちで育てた夏野菜を通して

赤組の保育室の前には、キュウリ、ナス、トマト、ピーマンの4種類の夏野菜が植わっています。6月に入り、次々とおいしそうな実を付け始め、子どもたちは「もうこれ食べれるんちゃうん？」と収穫することを楽しみにしています。キュウリは子どもたちが小さく切り塩をふっただけのものですが、とってもおいしかったようで、黄組さんや青組さんにも「どうぞ～」と振る舞ってあげていました。ですが、ナスとピーマンは苦手という人がたくさんいます。なにかおいしく食べられる方法はないかと考え、ホットプレートでナスを焼きその上にチーズをのせました。すると、おいしそうな匂いが部屋中に広がり、思わずパクッと食べて「おいしい！」と一言。その言葉に「私もいる！」「もう1個ちょうだい」と、多くの人がおいしく食べました。また、ピーマンも切っているそばから「そのまま（生で）食べてみたい」「なんか甘いね」と、採れたての新鮮さに舌鼓を打つ人が続出してびっくりです。



### 5歳児青組 年長児ならではの行事（カレーライスパーティー）を感じて

6月、「今からジャガイモを掘るよ」と伝えると、待ってましたとばかりに畑に集まってくる子どもたち。例年、年長児は自分たちが育てたジャガイモでカレーを作り、全園児を招待してくれるのですが、今年の青組もその期待と責任感を胸に、わくわくした気持ちでこの日を迎えました。自分のジャガイモの茎をグイッと引っ張ると、ポコポコとたくさんのジャガイモが顔を出しました。「うわあ～出てきた！」「先生見て！」と嬉しさいっぱい声が上がり、収穫したジャガイモを全部並べてみる人もいれば、秤で重さを量る人もいました。そんな中「これでカレーライスパーティーができるね」と少し安心したような表情で伝えてきた人がいました。ジャガイモは葉っぱが枯れて収穫するため、土の中のジャガイモも一緒に枯れてしまっていないかと心配になっていたのでしょうか。



さて、これでカレーライスパーティーができる！のですが、その前に粉ふきいもで味見をしました。あまりのおいしさに「お口の中でジャガイモがとろける～」「カレーにしてもホクホクかな」と、カレーを作ることや小さな人に振る舞うことを、ますます楽しみに思っている子どもたちです。

研究主題（仮）

「思考力」を育成するユニバーサルデザインの授業づくり（2年次）

本校では、昨年度よりこの研究主題を掲げ、特別支援教育の考えを生かして子どもの思考活動を保障する授業づくりを追究してきました。思考は「考えてみたい」という「意欲」や、それまでに学んだり身につけたりする「知識・技能」によって支えられています。そのような思考を支える要素に対して、特別支援教育の考えを手がかりに働きかけを行っていきます。

●●● 研究授業 ●●●

1年 生活科「きれいにさいてね わたしのアサガオさん」

なかや けいこ  
中家 啓吾



【世話と生長をつなぐ】

子どもたちは、2年生からプレゼントされたアサガオの種に興味をもちました。そして、種をまいてからは、アサガオの花を咲かせたいという願いをもって世話を続けています。

子どもたちがしている「世話」と「生長の様子」から、自分のアサガオへの関わり方について価値や課題を捉える力を本単元の思考力として設定しました。この思考力が身につけば、アサガオの生長を考えた世話の大切さが分かって、今後の世話の仕方を決定していくことができます。

授業では、生長ブック（アサガオの生長の様子を描いた絵とそれまでの過程で行った世話とを構造的に記録したもの）を用いて、アサガオの生長過程を振り返りました。生長ブックに板書も対応して示し、子どもたちは自分たちがしてきた世話とアサガオの様子を関連づけて

、「自分たちが頑張って水やりを続けたからアサガオが生長した」ことに気付き、「水やりを続けること」の価値を捉えることができました。また、世話をされるアサガオの気持ちになって生長の様子を身体表現したり、アサガオの気持ちを吹き出しに書いたりすることによって、よりアサガオに親しみをもつことができました。

さらに、授業後には「きれいな花を咲かせてほしいから、これからも水やりや肥料やり等の世話を続けよう」という明確な目的意識をもって、これまで以上に熱心に世話をする子どもが増えました。



【生長ブックで振り返る】

4年 理科「発見！電気之力 ～モーターが回ったよ！～」

もり まさずみ  
森 真佐純

モーターの回る向きや速さ（はたらき）の違いを、つなぎ方の違いと合わせて、電流の向きや大きさと関係づけて捉える力を本単元の思考力として設定しました。そこで本時では、乾電池の直列・並列つなぎと、電流の大きさ、モーターの回る速さを関係づけて捉え、「電流が大きい時、その働きも大きくなる」ことを、検流計による電流の測定を通して確認していきました。

子どもたちはまず、単元導入時に描いたイメージ図を基にして、本時予想段階で直列つなぎ、並列つなぎの導線の中の電流のイメージを描きました。モーターカーが速く走った経験から、直列つなぎの際は大きい電流のイメージを、並列つなぎの際は1個の時と同じような電気のイメージを考え、発表しました。

次の確認実験において、右のような乾電池（ソケット）、モーター、検流計の位置を固定した実験ボードを使用しました。この実験ボードでは、両端にゼムグリップを付けたコードを使用します。ゼムグリップをソケットと電池の間に挟むことで接続における接触不良を防ぐことができました。



【実験ボード】

また導線の中間部分の被膜を露出させて、ワニ口クリップをつなぐことができるように工夫しました。これにより、典型的な並列つなぎを再現することができました。

実験結果を記録する際には、回路上の乾電池のつなぎ方やモーターの回る速さと、電流の大きさとの関係を視覚で確認できるように、整理して表示しました。さらに、検流計の目盛りを帯の長さで示すことで、目盛りの大きさを確認しやすくしました。

最後に子どもたちは、乾電池1個では動かなかった電気製品も電流の大きい直列つなぎなら動かすことができるだろうと考え、実際にテープレコーダー等を動作させてみました。動作したことに喜び、実感をもって学ぶことができました。



【結果を整理して表示】

# 「学ぶこと」と「生きること」の統合 —語り合う中で自己の「ものがたり」をつむぐ—

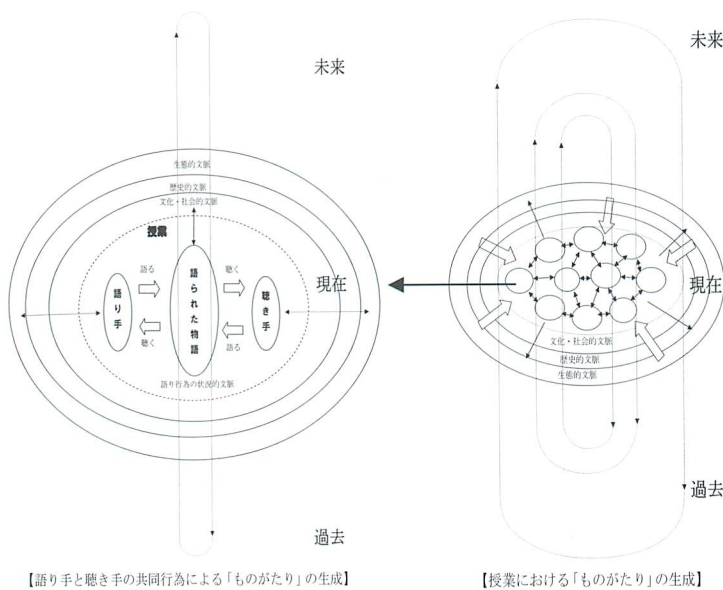
「学ぶこと」とは、どういうことでしょうか。それは「勉強」とはどう違うのでしょうか。

「学ぶこと」と「勉強」を同じだと思える人がいるかも知れませんが、実は大きく異なっています。「学」の旧字体は「學」であり、字源的に見ると、ある空間の中で子どもたちが相互に交わりながら、大人の手を借りて成長していくという意味があります。一方「勉強」のほうは、「勉」にも「強」にも「しいる」「むりやりさせる」という意味があります。塾がテストや入試という別の目的のための勉強を中心に展開するのに対し（よって目的が達せられれば多くは勉強をやめる）、学校の授業は、「学ぶこと」それ自体が楽しいということを基本として、対話的、共同的に展開されるべきなのです。

しかし、現在の学校教育においては、「学ぶこと」と「生きること」が乖離<sup>かいり</sup>していると言われ、情報消費社会に対応した新たな学びの形の創出が求められています。

中学校では、「生涯にわたって学び続ける自立した学習者の育成」を目標として研究を進めてきました。今期は、「学ぶこと」の意味や価値を自己に引きつけて自己理解を図る、自己の「ものがたり」をつむぐ授業をテーマとしています。「ものがたり」の授業とは、生徒のアイデンティティ形成を図り、対象や他者とのかかわりの中から、新しい自己を構築していく「学び」です。語り合う中で、自己の「ものがたり」をつむぐ授業が生徒の意欲を生み出し、生涯にわたって学び続ける学習者の育成につながると考え、実践研究を始めています。

また、個々の生徒の得意、興味、学習スタイル等の特性を表す認知的個性（CI）に着目し、授業等における「かかわり」に活かしていくことが有効であると考え、その具現化に向けても研究を進めています。



【授業における自己の「ものがたり」の生成】



【CIプロフィールキーホルダー】



【自己の「ものがたり」をつむぐ授業の様子】

CANCAN



# 「総合学習シャトル」が 新しくなりました



5月10日より、本年度の「総合学習シャトル」が開始されています。

昨年度までも「シャトル学習」は、総合学習「CAN」における探究学習に必要なスキルを学ぶ場として実施してきました。外部発信において「全国学芸サイエンスコンクール学校奨励賞」「旺文社赤尾好夫記念賞入選（小説部門）」等を受賞するなど、評価も得ました。

しかし、まだまだ教科の発展学習の意識が強く、探究に必要なスキルを身につけるといふより、教科の枠内にとどまっているのではないかと、という課題も浮かび上がりました。

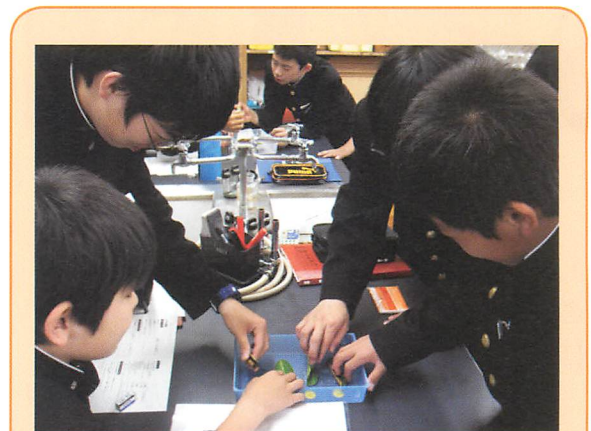
そこで、本年度は「総合学習シャトル」を「探究に必要なスキルを学び、それらを活用して探究シミュレーションを体験する場」とであるという基本理念を教師と生徒が共有できるよう講座内容を大幅に見直しています。そこで、異教科の教師ペアによる新たな講座を開発し、教科を総合した探究的な学びの場であるとの構えを全面に打ち出しました。

講座内容を「基礎編」「特設講座」「実践編」に分けることで、探究の仕方をよりスモールステップで確実に習得できるよう工夫している点は昨年度と同様です。この新しい「総合学習シャトル」によって、いっそう学ぶことや探究の楽しさを知り、一人ひとりが自立した学習者として学び続けてくれることを期待しています。

総合学習シャトル 講座一覧表

| 講座                              | 講座内容   |   | 有効なMI |    |    |    |    |    |  |
|---------------------------------|--|---|-------|----|----|----|----|----|--|
|                                 | 基礎編で学ぶ<br>主な探究スキル  | 実践編で行う<br>探究シミュレーション  | 言語    | 論理 | 空間 | 身体 | 音楽 | 博物 |  |
| ① 発想！<br>爆SHOW！<br>仮装大SHOW      | ・発想する<br>・表現する<br>・着眼する<br>・分析、評価する<br>・分類する                               | 仮装のテーマを考え、データの分析結果をもとに、テーマの特徴を上手く表現できるように探究していける講座。                       |       | ○  | ○  | ○  |    |    |  |
| ② 集めて見たら…<br>そうだったのか!!          | ・着眼をする<br>・発想する<br>・比較する<br>・分類する<br>・関連づける<br>・表現する                       | 身近なもの・人・ことに着目し、各自でテーマを決め、分類、比較・関連づけを行いながら、わかったことをフリーペーパー風にまとめて掲示する。       | ○     | ○  |    |    |    |    |  |
| ③ 白熱！変数教室                       | ・課題を設定する<br>・実験を考える<br>・条件を制御する<br>・関係を見いだす<br>・説得する<br>・データを収集する<br>・質問する | 紙コプターの性能向上のための「変数」を自ら設定し、その探究方法を考えることで、CANにつながる広い分野での研究方法を自然にマスターしていける講座。 |       | ○  | ○  | ○  |    | ○  |  |
| ④ 魅力ある表現を<br>探り、自ら創り、<br>発信しよう！ | ・着眼をする<br>・発想をする<br>・比較する<br>・関連づける<br>・視覚化する<br>・伝達する                     | 「香川県の特産物」を県外の人に知ってもらうために表現物であるCMを制作していく。そして、外部発信のためのレポートをまとめる。            | ○     |    |    |    |    |    |  |
| ⑤ 気づき！<br>発見！<br>身近な世界！         | ・着眼をする<br>・発想をする<br>・比較する<br>・分類する<br>・関連づける<br>・視覚化する                     | 身近にありながらも見過ごしてきたものに気づき、写真に取め、比較・分類、考察しながら文章や言葉とつなげて一冊の本で表現する。             | ○     | ○  |    |    |    |    |  |
| ⑥ 想いを形に<br>一瞬を物語に<br>自分を表現      | ・着眼する<br>・発想する<br>・情報を選択する<br>・視覚化する<br>・表現する<br>・分析、評価する                  | 自分が伝えたいテーマから、それにふさわしい物語を考え、素材となる写真や音楽を自分たちで用意し、フォトストーリーを作って表現する。          | ○     |    | ○  |    |    |    |  |
| ⑦ 不思議発見<br>生活へ活用                | ・着眼をする<br>・発想をする<br>・分類する<br>・視覚化する<br>・伝達する                               | 「生活を豊かにするために」をテーマに、アイトリックの仕組みを使ったものや視覚に効果的に訴えるものを考案し、提案する。                | ○     |    | ○  |    |    |    |  |
| ⑧ 疑問解決への<br>架け橋                 | ・着眼をする<br>・発想をする<br>・比較する<br>・関連づける<br>・関係を見いだす<br>・伝達する                   | 自分たちの素朴な疑問などを独自調査し、わかりやすく解決していく。その結果を一番効果的な方法でまとめ、公表する。                   | ○     |    |    |    |    | ○  |  |

【基礎編・実践編の8講座】



【変数に着目しながらの探究活動】



【企画についての異学年での話し合い】

【基礎編での学びの様子】

## 特別支援学校における放課後の取組から

### 【部活動】

中学校や高等学校には運動部と文化部がいくつかあり、生徒は選択した部で年間を通して活動し、大会やコンクールに出場するなど、日頃の練習の成果を発揮し、他校との交流を深めていると思います。本校では、生徒数や大会の種類及びねらいにより、「運動部」を設けて、同じメンバーで各大会に向けて部活動に取り組んでいます。

県内の特別支援学校の大会は、ティーボール、水泳、卓球、駅伝があり、水泳においては四国大会もあります。県大会が直接全国大会へはつながっていませんが、社会人を含めた選考会や一般の大会で好成績を出すことで、国民体育大会の後に行われる「全国障害者スポーツ大会」に出場できたり、その先のパラリンピック等にも出場したりすることができます。

県内の大会において、4種目が取り上げられているのには意味があります。まずはティーボールと卓球の球技です。ティーボールはティーにボールを置いて打つソフトボールのような種目です。これら2種目は地域等で取り組めるもので、『生涯スポーツへつなげる』というねらいがあります。



ティーボール大会



四国水泳大会表彰



駅伝大会

一方、水泳と駅伝は体力の向上を目的としています。毎朝行うトレーニングにもランニングを導入するなど、年間を通して筋力や持久力を鍛えることで『卒業後の社会人に向けて備える』というねらいがあります。

大会は、一番歴史があるもので35回、新しいものでも25回重ねられてきましたが、本校が団体で優勝したのはわずか7回です。県下で一番生徒の少ない学校ではあるものの、大規模校を破って優勝できるよう、日々部活動に取り組んでいます。

今年の6月には障害者の世界選手権がチェコで行われ、本校17年度の卒業生が日本代表として陸上競技で出場し、400mリレーで優勝しました。本校の部活動の延長線で、今後も日本を代表する選手が生まれてくれることを願っています。

### 【放課後活動】

放課後活動は、家庭での『充実した余暇へつなげる』という目的で、月1回、軽運動と茶道に分かれて実施しています。

軽運動では、ランニング、サーキット運動、そしてボール運動に取り組んでいます。ランニングの途中には8種目の補強運動も取り入れています。この補強運動が結構きつく、サーキット運動も時間いっぱい動きっぱなしで運動量が多いのですが、子どもたちは汗をかきながら真剣に取り組んでいます。そして、最後のお楽しみのボール運動では笑顔で取り組んでいます。みんな元気いっぱいです。

茶道では、お茶の先生に毎回ボランティアで来ていただいています。お手前を見せていただき、その後、お茶をたてたり、おはこびの練習をしたりしています。みんなでお茶をいただく時間がとても楽しく、和やかな、いい時間が過ごせています。

放課後活動が余暇につながり、より豊かな生活ができることを願っています。



サーキット運動



ボール運動



お茶の先生と

## 特別支援教室「すばる」における運動スキルの指導

特別支援教室「すばる」では、お子さんの主訴や保護者の相談内容に応じて「運動スキルの指導」も実施しています。そこで、今回は、運動スキルの実践について紹介したいと思います。

特別支援教室「すばる」で個別指導を受けられているお子さんの中には、はさみやコンパスがうまく使えない、ラジオ体操や平均台渡りなどがうまくできないなど、手先の細かい動きや手足を使った大きな動きに「不器用さ」をもっている場合があります。「不器用さ」への支援としては、上半身全体の力を強化する運動や、自分の体の位置や動きについての身体意識やバランス能力を高める運動、体の両側を協調させながらこなせるような運動等を実施し、基礎的な運動スキルを高めていくようにしています。

また、身体意識やバランス能力を高める指導では、前庭感覚（重力と動きに関する感覚）や固有受容感覚（身体の位置と動きに関する感覚）などの感覚器官に働きかける活動も取り入れた実践に取り組んでいます。

### ★運動スキル指導の様子



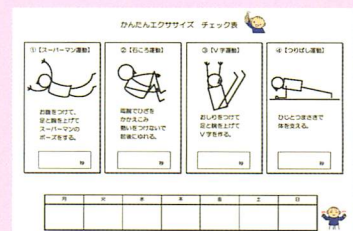
不安定なエアーマットの上から魚釣りをするゲームです。バランス能力や前庭感覚等に働きかける課題です。お子さんがゲームを楽しみながら、各運動スキルを高めることができるように配慮しています。魚を釣った後は、2本の支柱が半円形になった不安定な1本橋を、バランスを取りながら渡って帰ります。



キャラクターのカードを強力な洗濯ばさみで留めていく課題です。指先を器用に動かす力を付けるための課題です。他にもジッパー袋に物を入れる課題、ピンセットやトングで物を移動させる課題等に取り組んでいます。



陸上競技等の練習で使用する「ラダー」を活用し、指導者の声かけでケンケンパや両足の交差など、いろいろな足の動きをする課題です。身体の両側を協調させる運動スキル等を高める課題です。必要に応じて、「すばる」で取り組んだ課題を家庭でも取り組めるよう、運動のチェック表を持ち帰っています。



運動チェック表の例

### ★関連自作教材



魚釣りゲームに使っていた1本橋やiPad用の三脚パーツ、1本脚のバランスチェアは、スタッフの先生の手作りです。特にiPad用の三脚パーツは、指導者とのやり取りなど学習の様子を様々な角度から撮影できるため、その画像をお子さんに見せて即時にフィードバックすることが容易になり、大いに活用しています。

今後も、現在ある教材を有効活用するとともに、指導者やお子さんが活用しやすい物を必要に応じて作製しながら、支援を続けていきたいと思っています。

## 幼稚園より

## 『命のお話』を聞いて

5月30日、年長児の青組親子を対象に『命のお話』親子学習会が実施されました。命のお話ってどんなことだろう、と思いながら親子ともどもワクワクした気持ちで参加しました。

助産師の方々から命の始まりのお話を聞いたり出産場面の疑似体験を見たり、生まれてきた赤ちゃん（実物大の人形）を抱いたり、という活動を行いました。助産師の方からは、子どもの目に耳に心に届くよう、歌や劇、楽しいトークを交えながらもとても大切なことを私たち親子に伝えていただきました。劇の中では赤ちゃんを出産する日の家庭の様子が演じられていました。お父さんとお母さんがどういう思いであなた（子ども）を産んだのか、あなたが生まれた時にまわりの家族がどんなに喜んだのか、ということ子どもに分かりやすいように伝えてくれました。それはまさに、私たち親が子どもに伝えたいことで、伝えなければならないことだと感じました。その劇を見ている子どもたちの目は真剣で、感動していたようにも見えました。

その後、保護者への話の中で現在の社会で起きている危機的状況を知り胸が痛くなりました。そのような現状があるからこそ助産師の方々も必死に伝えてくださっているのだとわかりました。何よりも自分の体、命を粗末にしてほしくない。自分自身を大切にできる人間になってほしい。その為には、まだまだ小さいからと性教育から目を背けるのではなく、大切なことを話し合い伝えていくことが大事だと思いました。そして日々の生活の中であなたのことを愛しているよ、と伝えていこうと思いました。このような貴重な機会を与えていただきとても感謝しています。



## 小学校より

5月18日（土）、180名を超える児童・保護者が参加して、1年生歓迎ウエルカムパーティーが開催されました。

「新聞おりおりぎゅーぎゅーゲーム」や「附属小学校〇×クイズ」など、児童と保護者が一緒に楽しめる様々なゲームが行われました。昨年に引き続き行われた「クラス対抗綱引き」では、保護者も本気モードに突入り必死で綱を引いていました。また、今回初めて登場した「なわとびピョンピョンリレー」には校長先生も参加していただき、「いもむしコロコロゲーム」は児童にとっても好評でした。

入学して間もない児童どうし、初めて会う保護者どうし、笑顔があふれる楽しい時間を共有することができ、お互いの距離感がぐっと近づいたと感じました。担任の先生と保護者のクラス懇談会も行われ、有意義な情報交換の場がもてたと思います。

今年の松韻会活動のテーマは「本気の絆づくり」。これから9年間、附属学園の仲間として絆づくりをしていくよいキックオフになったと思います。

最後になりましたが、ウエルカムパーティーの準備・運営をしていただいた常任委員の皆さん、ありがとうございました。





## 中学校より.....

6月8日 附属坂出中学校でオープンスクールが開催されました。

この日は保護者に学校の様子が公開されるため、たくさんの保護者が中学校に集まりました。

午前に行われた親子セミナーでは坂出市消防本部 消防署主幹の藤井 浩二先生が『絆～今を生きてこそ明日がある～』という題目で約1時間のご講演を行いました。ご自身が実際に現場に行かれた、阪神淡路大震災、東日本大震災の実地でのご体験と生徒の学業を絡めた、大変聞きごたえのある講演となりました。「もし被災した場合、一番何が大切か」を保護者、生徒共に改めて気づかされ、『命の大切さ』を真剣に考えることのできる実りのある1時間となりました。また保護者の代表が、実際に阪神淡路大震災で被災した女性が実の子どもに向けた手紙を代読したシーンでは子供たちから驚嘆の声がもれるなど、普段の授業とは違った貴重な時間を親子ともに共有することができ、会場から大きな拍手がわき起こりました。

午後からの学級親睦会では保護者同士が思春期に入った子供たちについての悩みなどをお互いに話し合い、共有し、また共感し、同じ立場で本音をぶつけあうことで午前の部とは違った切り口の貴重な体験をすることができました。

オープンスクールは企画・コンセプトの根幹が回を重ねるごとに充実し、附属坂出中学校になくてはならない事業となっていると思います。今回参加できなかった保護者の方も、次回は是非参加して、子どもたちと一緒に実りのある時間を過ごしてみたいかがでしょうか。



## 特別支援学校より.....

### 平成25年度親和会 活動開始！

#### 「親和会総会」

4月21日（日）に親和会総会が行われ、平成25年度の活動がスタートいたしました。親和会は、本部の下に「運動部」「行事部」「研修部」「文化部」の四つの運営部があり、会員はそのどこかに所属していただきます。総会後の部会が初顔合わせとなり、自己紹介をしたり、1年間の活動内容について話し合いをしたりしました。それぞれの活動を通して、小・中・高の学部の枠を越えた交流ができることも親和会の魅力の一つです。

#### 「春季運動会」

5月12日（日）の春季運動会。快晴の中、来賓の方、地域の方、卒業生や保護者の皆様、多くの方に参加していただき、盛大に行われました。本校の児童生徒たちも、練習の成果を発揮し、力強く生き生きと競技に取り組む姿を見せてくれました。用具の準備や放送の係になった人、楽しいゲームを考えてくれた生徒会の皆さんの活躍も素晴らしかったです。

親和会としましては、駐車場の係、バザー販売、景品やお弁当の手配などで参加しております。ご協力いただきました会員の皆様、ありがとうございました。毎年少しずつではありますが、保護者もより楽しめる運動会となるよう、活動内容の改善を図っております。

今後も、会員の皆様に参加しやすい親和会活動を目指し、力を合わせて取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 親和会



来賓・保護者チームの玉入れ



保護者・生徒OB・先生、チーム対抗綱引き

3年生:修学旅行

4月11日(水)～15日(日)まで、屋久島、阿蘇、太宰府天満宮、長崎平和公園などを巡る4泊5日の修学旅行に行ってきました。長崎での班別自主研修中、あるグループが困っている方のお手伝いをしたところ、その方からお礼状が届きました。「忘れかけていた人の優しさと思いやりという大きな贈り物をいただきました。」という心こもったお手紙から、私たちも大切なものを学ばせていただきました。



2年生:五色台集団宿泊学習

4月30日(火)～5月3日(土)まで、「五色クレヨン～Colorful Smile～」をテーマに、集団宿泊学習を行いました。五色台では、指示を待つのではなく、自分たちでしおりを確認し、仲間と声を掛け合って、先を見過した行動ができました。この経験が、学校生活の中で、時間を守る、準備物を忘れないなどの行動に確実に活かされています。



1年生:災害時用非常持出袋配布

通学区域が広範にわたる本校では、災害後すぐに帰宅できない可能性があります。そこで、最低限の備えとして、非常持出袋を一人に一袋ずつ教室のロッカーに各自保管してあります。1年生にも、5月24日(金)に備蓄食糧が届き、非常食の内容や自宅付近の避難場所を確認しながら袋に詰めていきました。後期には、この非常食を実際に食べる体験も予定しています。



中学校

幼小交流サツマイモ植え

5月14日、本校の1年生と幼稚園の青組さんが交流し、小学校の学級園にサツマイモを植えました。これまでも収穫をいっしょにしたことはありましたが、今回初めて植えるところからの交流です。1年生が場所を案内し、ツルの植え方をやさしく教える姿が印象的でした。相手を思う心がサツマイモと共に大きく育って実るといいですね。



外国語活動自由参観

6月14日、21日、外国語活動自由参観をしました。本校では全ての学年に外国語活動の時間を設定しています。系統性を重視し、語彙や表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力を高める指導をするように心がけています。5年生の学級では、「How many ○○do you have?」の語形で様々な物を当てはめながら、ペアで楽しんでいました。



小学校

特別支援学校

楽しい宿泊学習・キャンプ!

本校は、自立をめざし、日々、様々な学習を行っておりますが、総合的に生きる力を身に付ける学習の一つとして、小・中・高、それぞれの目標に基づき、宿泊学習やキャンプを行っています。

【小学部】(学校で宿泊学習)

買い物、調理、花火、入浴、就寝、起床、朝の支度など、家庭生活に結び付く活動を中心に、宿泊学習を行いました。見通しをもって楽しく活動する中で、自分のできることが年々増えています。



うどん打ち体験

【中学部】(中1 宿泊学習)



食材の買い物

夏の学部キャンプに向けて、事前に中1組は、学校の宿泊棟を利用して、宿泊学習をしています。自分たちで食材の買い物をし調理したり、レクを楽しんだり。今年もおいしいカレーを作り、Wiiやシャボン玉や花火を楽しみ、ぐっすりと眠りました。学部でのキャンプが楽しみになりました。

【高等部】(南川キャンプ)

役割分担や食事内容、ファイヤーの出し物、レク活動など自分たちで計画・運営するキャンプを毎年行っています。一人一人が責任をもって活動することやグループで協力し合うことなどを学び、学校生活に生かしています。



幼稚園

<6月の水遊び>  
～芝生の上で水遊び～

緑の芝生の上に大きなプールを置いて、水遊びを楽しむ子どもたち。身体をいっぱい動かして水に親しんだり、水鉄砲やペットボトルなどの道具を使って水の不思議さを楽しんだりしています。保護者の協力のもと植えた芝生のおかげで、気持ちよく楽しめています。



山の上だと遠くまで飛ぶよ。スリル満点ウオーターすべり台 おおい。気持ちいいよ!

～プールで水遊び～

12日はプール開きでした。晴天に恵まれ、水の中に入るのがとても心地よい日でした。天気のおかげもあり、プール初日の人も怖がることはあまりなく、思い思いに十分楽しめました。子どもたちは、浮く板なども使って、思う存分水の中で遊んだり、顔をつけることや浮くことに挑戦したりしています。



トンネルって面白いね みんなでスイスイ進むよ 顔つけ輪くぐりに挑戦

編集後記

梅雨入り当初はなかなか雨が降らず、蒸し暑い日々が続きました。長期予報では、気温は平年並みということですが、猛暑日という表現とあいまって、近年の夏がいつそう暑く感じられます。しかし、教室に冷暖房が完備されたおかげで、毎日暑い中においても、学園の皆さんの学習や様々な活動が、以前に比べて快適に行えるようになっていきます。4月から附属坂出学園に入られた皆さん、学園での生活は充実していただいでしょうか。附属坂出学園での出会いを大切に、園児、児童、生徒、保護者、教職員一同、本気の絆づくりをめざし、共に歩んでいきましょう。

これから、長い夏休みに入ります。夏休みにしかできないことに取り組み、充実した時間を、家族や仲間と過ごしてもらいたいものです。学園の全員が元気な姿で夏休み明けに再び会えることを心から祈っています。

関係の皆様方、附属坂出学園に対し、厚いご支援をいただき心より感謝申し上げます。今後とも引き続きご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

発行年月日：2013年7月16日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 中西 健三 (附属坂出中学校)

伊藤 宏美 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)